

研究ノート

ロシア語の移動動詞 —日本人のためのロシア語文法に向けて—

檉 尾 頌 子

Russian transferable verbs
— Regarding the Russian grammar for Japanese learners —

Shoko KASHIO

1. はじめに

ロシア語文法、ロシア語会話の習得において、ロシア語移動動詞は、初級会話・コミュニケーションの必須表現であるにもかかわらず、多くの学習参考書では、後半の課で初出している例が多い。これは、日本人にとって、一般的に、ロシア語の移動動詞の習得がやや困難な学習項目のひとつと考えられていることを一端で示している。また、ロシア語圏においても、外国人用として一般のロシア語文法書以外に、ロシア語移動動詞のみを扱った「ロシア語移動動詞参考書」も出版されたり、また、ロシアにおける外国人のためのロシア語教育機関においても「移動動詞」のゼミが独立して別枠で設けられていることもある。これは、日本人だけではなく、多くの外国人にとってロシア語移動動詞の理解には一定の困難が伴うことを、ロシア語を母語とするロシア語教育者が認知していることを示している。

日本人がロシア語文法や移動動詞を習得する際、どういう点に留意すべきかについて、将来検討の必要があろう。本稿においては、その試みを若干行う。主に、ロシア語移動動詞の中の最も基本的な、「歩いて行く、来る」、「乗り物で行く、来る」を採り上げる。後半で若干、文章・談話レベルの機能にも触れる。

1. ロシア語移動動詞の基本用法

1.1 ロシア語移動動詞の種類

ロシア語移動動詞は、基本的に、下記の a、b、c である。ここではこの全てには触れることはできないが、参考までにロシア語移動動詞の全体像を大枠で a、b、c として挙げておく。

本稿では、基本移動動詞のうち、最も使用範囲の多い下記を採り上げる (* 印のもの)。

a. 一定方向への移動動詞 (a. の動詞は、一定方向への 1 回、および、反復の移動を示す)

- * 歩いて行く・歩いて来る
- 走って行く・走って来る
- * 乗って行く・乗って来る
- 飛んで行く・飛んで来る
- (徒歩で) 持って行く・持って来る
- (徒歩で) 連れて行く・連れて来る
- (乗り物で) 運んで行く、(乗り物で) 連れて行く
- ぶらぶら行く、来る
- 追って行く、来る
- 泳いで行く、来る。流れて行く、来る
- 這い上がる、降りる
- 這って行く、来る
- 引いて行く、来る、重いものを (一定方向に) 運ぶ

b. 不定方向、または、往復を示す移動動詞 (上記の a. と一定か不定かで対立している)

- * 歩く、歩きまわる、往復する
- 走る、走りまわる、走って往復する
- * 乗る、乗りまわす、乗り物で往復する、乗り物で通う、通学 (勤) する
- 飛ぶ、飛びまわる、(飛行機などで、または、渡り鳥などが) 往復する
- 持ち歩く、徒歩で運ぶ、徒歩で届ける 着用している
- 連れて歩く、連れまわる、連れて往復する 運転する
- 乗り物で運ぶ、乗り物で運び回る、配達 / 輸出入業にたずさわる
- ぶらつく
- 追いまわす
- 流れる、泳ぐ、ただよう、(船で、泳いで) 航海、往復する
- 這って上がり降りする
- 這う、這いまわる
- 引く、引き回す、重いものを (往復や反復して) 運ぶ

c. さらに、上記の a. と b. に接頭辞 -, -, -, -, -, -, -, -, -, - ,

ロシア語の移動動詞（樫尾）

、 -、 -、 -等を付加して意味のニュアンスを変える。1例を挙げると、接頭辞
 を、上記の a . の先頭にある に付けた場合。
 * ()
 (など)。
 * (など)
 (など)。乗り
 物で行く場合は、不定方向の基本移動動詞は であるが、接頭辞を付ける場合は、
 のため、 ではなく、 となる。
 以上、一定方向の移動動詞 、 に接頭辞を付けるとアスペクトの完了体になり、
 不定方向の移動動詞 と の変形 に付けると、不完了体になる。ただ
 し、不定方向を表す基本移動動詞 に接頭辞 を付けた は、同形で二つの
 意味を持つ。ひとつは上記の完了体 不完了体のペアの意味に準じている。もうひとつは、今ま
 での例と異なって、不完了体にはならないで完了体になり、また、意味も異なり、「行って来る」
 という往復移動の意味になる。 も同様で、 / は上記に挙げ
 た規則的なペアを形成し「乗り物で下る、降りる」になるが、不定方向の基本移動動詞
 に接頭辞 を付けると、c 「乗り物で行って来る」となり、あまり時間をかけない往
 復の移動になる。ただし、形態論から見ると、 は、上記の完了体 不完了体の
 ペアの規則性から外れる。ここに挙げたのは、「 / , / 」に接
 頭辞の付いた例だが、これらの接頭辞は、原則として a、b . 26 種の動詞に付き、c . の不完了
 体 完了体のペアを形成するグループに入る。この他、接頭辞は 、 、 、 など
 がある。

これら全てに、テンス（現在形、過去形、未来形）と主語の人称（私、君、彼、彼女、私達、あ
 なた、彼ら）・主語の性（男性名詞、女性名詞、中性名詞）・複数、発話時 / 文章の基本のテンスに対
 して「移動の結果が残存しているか（ ）、結果が消滅しているか（ ）」等の
 基準によって移動動詞の形態が異なるため、かなりの数になる。形態だけで言えば、200～250 種
 近くの移動動詞の形態が談話・文章において日常的に使われる。なお、接頭辞 は、
 だが、対応の意味は、他の対応と異なる。一定方向を示す基本移動動詞 に付
 くと (出発する・出かける) を意味する。不定方向を示す基本移動動詞 に
 を付けると になる。これは特殊で、「少し歩き回る」という意味になり、「出発」
 の意味はない。アスペクトの点から見ると、 、 両方とも完了体である。「乗
 り物で行く」は、 や だが、その命令形は、これらの移動動詞からは作らな
 いで、現在では使われていない移動動詞の辞書形 から作った ! が、
 や の命令形として使われている。この形態形成は外国人にとってはかなり不
 規則と感じられる。ロシア語の動詞文の体系は、存在動詞 、 移動動詞、その他の動詞（動

く・休む・読む・書く・聞くなど多数)の3つに分かれる。ロシア語移動動詞は、ロシア語の動詞文(3種)の体系の中で、独自の位置を占めている。こうしたロシア語移動動詞の多種の形態の中から、どのようにして話し手は形態を選択するのだろうか。話し手は上記の移動動詞の中から、下記の基準(要素)を適宜取捨選択し、組み合わせて、1つの移動動詞の形態を選択する。まず、移動動詞の例文を示す。

1.2 移動動詞の用例

一方方向の移動

歩いて行く

(1回の移動)

< _____ - _____ > _____ .
(学生達が今、経大通りを歩いて行くところだ。)

_____ ? (このバスは町の中心街に行きますか。)
(1回限りの移動: 一台のバスが今、中心街に向かって走っていく。)

(習慣・反復)

_____ , _____ . (家に帰る途中、いつもパンを買う。)

乗り物で行く

(1回の移動)

(習慣)

< _____ - _____ > _____ .
(反復、習慣: 彼は朝は新幹線で仕事に行くが、帰りは普通列車に乗って行く。)

No. 5 _____ ? (5番のバスは町の中心街に行きますか。)
(話し手の関心は一方方向を焦点化した反復、習慣であって、往復は視野に入れていない。)

往復の移動、または、不定方向の移動

(1回きりの往復運動)。

(習慣・反復)

_____ . (昨日は大学に行った。)
_____ . (_____) (私は大学・学校に通っている。)

2. ロシア語の移動動詞の形態選択の基準

こうした移動に関する表現を、ロシア語ではどのような基準で選択するのだろうか。

ロシア語の移動動詞の形態を選択するにあたって、一定の原則がある。それを挙げると、

- ① ロシア語の移動動詞は、一定方向の移動か、往復・不定方向の移動かを区別する。

ロシア語の移動動詞（櫻尾）

- ② 歩いて行く、か乗り物で行くかを区別する。
- ③ 出発、進行中、到着か、移動の各局面を形態で区別する。
- ④ 1回限りか、反復・習慣かで形態を区別する（接頭辞を使い分ける）。
- ⑤ 話し手、聞き手の視点（行く、来る）

聞き手に向かって近づくか遠ざかるかで「来る・行く」を使うだけではなく、話し手から遠ざかった移動でも登場人物が移動して行った場所に視点を移動させる目的のときには、「来る」を使う。つまり、移動動詞を視点移動機能に使う。これは、日本語の「行く・来る」と異なる点もあるので、注意を要する（参照：3.2）。

- ⑥ テンス・アスペクト

発話時との関係（発話時以前は過去形、発話時と同時に現在形、発話時以降であるなら未来形）。これは、アスペクト（不完了体、完了体）とも密接に関連する。ロシア語の一般の動詞のアスペクトと同様に、ロシア語移動動詞にもアスペクトがあり、基本の性質がある。今、発話時に現場にいるかどうか等、移動の結果の残存を示すには、アスペクトの形態や接頭辞を変化させて表現する。未来における「出発」を示すときも、確定している予定であると話し手が捉えているなら、現在形（不完了体）を使う。移動動詞の基本用法は会話・談話に端的に出現する。一方、文章においては、発話時という基準はあてはまらないが、文章には一般的に、基本となるテンスの指定が何らかの表現によって原則として分かるようになっていたため、その基本のテンスに対して同時、以前、以降かで、できごとの前後関係が表現される。文章においては、一般的に、書き手の視点と登場人物（物）の移動との関係において、視点の移動という重層関係が見られる（参照3.2）。

- ⑦ 動作の順次性（日本語のテ形）は、完了体+完了体で示す。
- ⑧ 慣用表現 通勤、通学などは、実際に乗り物で移動していても「歩いて行く、来る」を使う。
- ⑨ 持続的移動動作テイタ形の描写を背景に、新たな別の移動動作の生起（例；ゆっくり歩いていたが、早く歩き出しタ。つまり、談話組み立てにおいて、テイタ形+タ形…シ出ダシタ形の組み合わせ）に焦点を置いている。

前述の1.2の用例は、これらの基準によって形態選択がなされている。

移動の局面（出発・進行・着）の形態選択として例を挙げる。

		()
(出発)	(進行)	(着)
(大学に出かける)	(大学に行く途中である)	(到着した・来た)
(家に着いた)	(家に向かって行く途中である)	(家に向かって出かける)

[注釈]

- ・上記は、1回の発着、進行の各局面を細かく捉えた表現だが、この往復全て含めて、
または、
と表現することもできる。
- ・複数回の発着、進行の場合は、私はいつも職場に9時に来ます。
私はいつも職場に9時に来ていました。
(私はいつも経大通りを通して大学に行く。一方方向の往復。)
- ・未確定の未来か確定の未来か、たとえば、ハイキングに行くため、駅集合すると、そこに参加不可の可能性のあった人が参加できることになって、来ていた。

ではない。つまり、③の移動中の動詞()を使用する。まだ移動中ではないのだが、確定未来、しかも車で移動するためとなる。この未確定、確定未来は、1週間後の未来のことで確定なら、完了体の未来ではなく、完了体の現在形使用となる。ただし、出発以前であっても、
を使わずに、「進行中」を示す、
が使われることがある。たとえば、レストランなどで注文した料理がなかなか来ないので客がウエイトレスに催促すると、
や
(今、あなたのところに料理を運んで行く途中です)と言って客の不満を和らげようとするが、その表現(今、料理を持ってあなたのテーブルへ向かっているところだ。運んで行く途中だ・運んで行きつつある)とは裏腹に、その後数十分も待たされることもある。つまり、まだその客のための料理は運ばれて行く最中ではなく、まだ出来ていないことさへある。これは、ちょうど日本でも、店の人が客の出前配達に催促に対してまだ出前の料理が出来ていないのに、「もう出ました。」「今、出ました。そちらへ向かっています。」という状況と似ている。接頭辞のついた移動動詞であるなら、不定方向の基本移動動詞に接頭辞のついたものを使う。例
来週、出立します。

- ・目的地は、①方向性を表す場所の副詞、② + 名詞対格、③ + 名詞の与格(に格) (私のところに)、
等になる。移動中の場所の表現(目的地ではなく、通っていく場所)は + 与格(に格)である。ロシア語は「与格・に格」だが、日本語は「を格」になる。例文
私は経大通りを通して行く。目的地は、対格となり、疑問詞は ? となるが、存在動詞 で表現する場合、名詞は前置格になり、疑問詞は ? になる。共同行動「行きましょう!」は、
! がある。後者のほうが親しい間での会話、または、促しの度合いがやや強い。日本語の「行くぞ。行くわよ。」に相当する。時間をかけないで往復するとき、
を使う。
- ・移動動詞の辞書形の用法は、若干異なる点がある。来週は大学に行く
だが、必要を示すとき、
明日は大学に行かなければならない。しかし、到着を意味する“来なければならぬ”は
。開始は、完了体で
(もう家に帰る時間だ)となるのが一般的である。(タクシーの運転手がお客に対して) ? 運転手はお客を目的地に運ぶのが目的である以上、完了体も考えられるが、完了体が一般的である。慣用的用法である以上、理由はつけられないが、完了体によって、完了体による「目的地+到着」をむき出しに出さないことで客に対してソフトな聞き方になる、という効果が考えられる。また、行くことは自明(磯谷 1977)なので、完了体になる傾向がある、とも考えられる。

3. 文章・談話における移動動詞の機能

以上の基本用法は、文章においてどのような形態と機能の関係になっているだろうか。

3.1 視点の移動

ロシア語の移動動詞（櫻尾）

石井ナターシャ（1994：201）に「日本語では『行く』、『来る』という2つの言葉の使い分けは、話者と主体（主語）となる人・物との関係に着目する必要がある。（中略）ロシア語の（行く）、（来る）は、話者の位置を含まない概念であり、主語となる人・物の移動に純粹に着目した言葉である。」とある。例として下記のロシア語と日本語が挙げられている。

「1 .

私の友だちは今朝京都へ車で行きました（出かけた）。

2 .

私の友だちは今朝京都に行きました（着いた）。（話者自身が京都にいない場合）

私の友だちは今朝京都に来ました。（話者自身が京都にいる場合）」（和訳を含め、石井ナターシャ 1994 から引用）

1の と2の は、日本語の移動動詞としては同じ表現（「行きました。」）が充てられ、（ ）内に、実質の意味として、 が（出かけた）と （行きました/着いた）となっている。 は、日本語の3つの移動動詞の形態になっている。ロシア語では、“主語となる人・物の移動に着目”し、一方、日本語では、話者がどういう位置関係から発話しているかが、表現のポイントになる、ということは、ロシア語と日本語が異なった用法のように一見思われるが、ロシア語、日本語とも視点の移動という観点からは、同じ機能である。つまり、発話時において、どこの視点に焦点を置いているか、発話時現在、人がどの位置にいるか、を問題にしているか、という点では日ロ共通である。また、文章の場合なら、語られている対象の人物が文章の中でどの位置にいるか、を示しているという点で共通である。問題は、ロシア語ではどの位置にいるか、を形態的に明示する傾向にあるのに対して、日本語では文脈依存の割合が大きい、ということではないか。

3.2 文章・談話における視点の移動

文章・談話においては、3.1で見たような発話時との密接な関係はなくなる。日本語もロシア語も二人～三人などの会話とは違った視点の働きが特に、文章において見られる。森田良行（1995：183～188）に日本語の文章として、「（略）文章や談話の中では、話し手が文中の人物の視点に立つという点も、見逃してはならない。（中略）これは結局、叙述というものが、常に文脈の流れの中で、流動的にそこに位置を移していく表現者の視点で捉えられ、描かれている、ということに他ならない。」とし、これは日本語独自の自己中心的把握の態度である、としている。これは日本語の視点に関する指摘だが、ロシア語の文章における視点移動もこの指摘で説明できると思われる。そうすると、ロシア語と日本語の文章の視点は全く同じ働きをしていることになるのだろうか。

例1は、「17 _____（ドストエフスキーを指す - 櫻尾） _____
..」、および、第二段落で「 _____（ドストエフスキーを指す - 櫻尾） _____

(略)」で移動動詞完了体過去形によって、場面の移動が生じ、生き生きした描写になっている。

例 1

17

29 () .
《 》 ,
- , ,
《 》 ,
- . 《 》 ,
... 》
(
) : 《...
《 》 . ,
. (.)

例2

1880

:
. 《 150 . , -
, - - .
- , .
《 》 .
. (.)

例3

, ,
- , - , ,
, ,
.

ロシア語の移動動詞（樫尾）

.(.)
 !
 :
 :
 《 》.
 ?
 《 》.

例1にある第三段落で「
 (略)」において不完了体過去形の移動動詞は、書き手の目から当時のできごとを解説
 している。書き手への視点移動は不完了体になっている。例2も同様である。「

1880
 : _____
 」（1880年末のある日にドストエフスキーは、旧友のプレシフのところ
 に立ち寄り、20年間返してなかった借金を返した。）という冒頭において移動動詞完了体過去形

の (立ち寄った)、 (寄ったついでに返した) によって登場人物があたかも “今移動して現場にいる” という機能を果たしている。この完了体過去形によって読み手の視点も登場人物の移動した現場に移動する。これが読み手に生き生きとした描写として感じられる。1段落の完了体過去形「 や 」、および、不完了体現在形「.. .」(借りはまだ少し残っている。」「 (やっとぼちぼち書き始めるようになったばかりだ。」「 (まだ始まったばかりなんだ。) や完了体未来「 (そのうち借金をかならず返すよ。) という登場人物 (= ドストエフスキー) の言葉は、生き生きとした現場の描写を助けている。一方、次の段落の「」(彼の余命は1ヶ月あまりしか残されていなかったのである。) の不完了体過去形 によって、登場人物の現場から、今度は “書き手の今の視点” へと視点の移動が起こっている。同時に、“書き手による解説” という機能を果たしている。時には、現在の習慣であるが完了体未来形で表現することもある(例3)。例3における「」とあるが、この という形態は、基本文法的には反復しか示さない。玄関のベルが鳴って今、医者が来ているのだから、 が基本文法の形態である。しかし、この文章例では、書き出しのある日の1回限りのできごとが生じたかのようにして始めながら (.)、今、医者が来た、ということ、反復しか示さない移動動詞の不完了体現在形 を使って表現をしている。不完了体現在形によって、しだいに、1回のことではなく、妻の毎度の心臓発作が妻の無茶な仕事振り・習慣からくることが文章を読みすすめていくうちに読み手に感じられるようになっていく。

おわりに

話し手は上記の基準を適宜取捨選択し、組み合わせて、1つの移動動詞の形態を決定する。ロシア語移動動詞において大切なことは、移動において生じる複数の概念のどれを話し手は焦点にしているか、である。①移動の手段 a. 徒歩 b. 車輪のついた乗り物(車・自転車・乳母車・電車) c. 飛行機 d. 船かでそれぞれ移動動詞の形態が異なる、②方向(一定方向・不定方向・往復方向)、③出発に焦点・移動中・到着、④1回きりの一定方向移動(大学に行く途中である)・1回きりの往復移動(昨日、大学に行った)・複数回の一定方向の移動(このバスは大学に行く。会社に行くときは、公園通りに行くが帰りは商店街を通る。)・複数回の往復移動(息子は通学している = 息子は(社会人ではなく)学校に行っている。)・複数回の不定移動(赤ちゃんはもう歩ける・鳥は飛ぶ・魚は泳ぐ、ドライブが好きだなどの能力や特性、趣味は、この複数回不定移動の概念に入る)、⑤現在・過去・未来 この場合、動作主体が今どここの位置にいるかを示す。これらの要素のどれに

ロシア語の移動動詞(櫻尾)

焦点、を充てているか、が移動動詞形式選択の決め手である。

これら基本用法が文章ではどのような機能になるかについては、先行研究に学びながら今後の研究としたい。

(かしお しょうこ・本学経済学部非常勤講師)

【参考文献】

- 石井 ナターシャ (1994) 『改訂版 ナターシャ先生と学ぶロシア語の基礎』 東洋書店
宇多 文雄・宇多久美子共著 (1998) 『こうすれば話せるロシア語』 朝日出版社
佐藤 純一 (1991) 『NHK CDブック すぐに役立つはじめてのロシア語』 日本放送出版協会
(1996) 『NHK新ロシア語入門』 日本放送出版協会
城田 俊 (1993) 『現代ロシア語文法』 東洋書店
中澤 英彦 (1994) 『初めて学ぶロシア語』
沼野 充義 (1993) 『NHK 気軽に学ぶロシア語』 NHK出版
(1987)
(1986)
(1970) < > (1970)
(1984)
(1968)
(新ロシア語文典)
稲垣兼一、初瀬 和彦 共訳 吾妻書房
(1982), I、II

